

グループホームジョイフルしらすぎ 1階 さくら

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の届くところに掲示し会議等でも理念に基づいたケアについて話し合っている。	「ゆっくり・一緒に楽しい暮らし」という分かりやすい理念であり、各フロア内にも掲示されているので職員間で常に意識されている。	普段は地域との交流もさかに行なわれているので可能であれば地域密着型サービス事業所としての意義も理念に付け加えていただきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し古紙回収に参加している。	コロナ禍にあって、地域との交流は中止されている。これまで近隣の高齢者も参加されていたふれあい喫茶、ボランティアや地元中学生の福祉体験の受入れの再開が待たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の為、ふれあい喫茶は中止しており今後の課題です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々や、家族様からの意見は職員間で共有できるように記録に残し会議で話し合いを行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、2回に1回は運営状況報告書による報告としている。家族、自治会、民生委員にも参加を呼びかけているが、外部からの出席は地域包括センターの方のみであったのでコロナ禍にあって開催できていた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一度開催する東住吉区のグループホーム連絡会に参加して情報交換を行っている。	グループホーム連絡会には管理者が出席し、主に運営に関する情報交換をしている。市区はコロナ感染対策のため連絡手段として郵送等を推奨されているので直接訪ねていく機会は今はない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	勉強会を行い身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠に関してはご家族様にも説明をし同意を得ている。	身体拘束をしないケアを実践している。ベッド柵は入居者の行動を制限しない範囲で二本柵を使用している。センサーマットは使用せず見守りで対応している。また日常の介護において言葉や口調により入居者の行動を制限しないように管理者が指導している。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加し内部研修を行っている。勉強会を行い毎月の会議で確認を行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等に積極的に参加し周知するよう努めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時には十分な時間をとり入居者様の今後について話し合いを行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>6 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見要望を受け入れ対応に心がけている。</p>	<p>意見箱は設置しているが意見は入っていない。家族は訪問時に管理者や職員にちょっとした要望を話したりする。現在入居者は家族とドアを開けてビニールのカーテン越しに面会ができています。</p>	<p>ちょっとした要望であっても申し送りファイル等に記入して職員全員で情報共有していただきたいと思います。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>7 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度フロア会議を行い意見交換をしている。</p>	<p>フロア会議では行事、ヒヤリハットの報告とその対策、研修等について話し合っている。また会議議事録は職員全員に配布して情報共有を徹底している。職員は日常において管理者に対して相談しやすいと感じている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が直接スタッフ一人一人と話し合う機会を設けていただける事がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の介護レベルの向上のために、積極的に外部の研修会等の受講を推奨している。研修にかかる費用は全額会社負担である。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>東住吉区のグループホーム連絡会やケアマネ連絡会に出席し情報交換を行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者がホームに馴染んでいただけるよう不安や要望等に耳を傾けるよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安を解消できるように話をする機会を多く持つようになっている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの機会を多く持つようになっている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と馴染みの関係を作るように努めている。人生の先輩としての尊厳の念を持って接している。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前のように面会ができづらくなっている為、ホームでの様子が分かるよう写真を載せた「瓦版」を作成して家族様に送付している。		
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	清潔保持や明るい雰囲気になるよう装飾も積極的に行っている。現在はドア越しでの面会を行っている。	現在家族以外の面会はできず、外出もままならない状況であるので関係継続できるのは主に家族である。家族とはカーテン越しに5分間程度の面会の機会を設けている。普段から面会に来られない家族には年1回手紙を書いて訪問をお願いしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や歌を歌ったりトランプなど皆でできるような声かけをしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談援助は行っている。要望があれば面会に行くこともある。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の段階で過去の情報や日常生活の様子を聞きケアの基本となるよう努めている。	入居期間が長くなると認知機能の低下が進行してしまい、本人ですら自らの希望が分からなくなってしまふこともあるので、職員は入居者の普段の様子をよく観察し、また表情をくみ取る細やかな介護を行なうように努めてる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階でご本人、ご家族様の希望を聞きケアの基本となるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主治医、看護師等に密に連携し状況把握に努めている。個人ケース記録の見返しも行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を別紙に記入し担当者会議で職員間の情報交換を行い医師、ご家族とも相談の上計画を作成している。	長期では1年、短期では3ヶ月に1回介護計画書の見直しを行なう。管理者、ケアマネジャー、約8割のフロア職員が担当者会議に参加して個人日常生活記録、看護サマリー等を参考に介護計画書を作成している。担当医師には往診時に相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホーム独自のシートにてご本人の生活状況の把握に努めている。職員間の申し送りも毎日行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の為、公園の散歩やスーパーの買い物は中止しており今後の課題です。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の適切な医療を受けられるよう努めている。</p>	<p>協力医は東和病院と高島内科クリニックでそれぞれ月2回往診する。高島内科クリニックは元々入居者のかかりつけ医で、現在3名の入居者を担当している。また1名別のかかりつけ医に受診しているがこちらも往診で対応していただいている。受診時には管理者が立会い、医師へ情報を伝え、医師からの往診情報を家族と職員に伝達し共有している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一度、訪問看護に来てもらい事前にFAXで状況を伝え看護を受けることができるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院との関係作りに努め常に情報交換や相談を行っている。面会、電話にて状況確認にも努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人、ご家族、病院と話し合いを行い本人本位の支援ができるように努力している。</p>	<p>マニュアルの指針に従って対応している。重度化を決めるのは主治医であり、家族の希望を尊重して積極的な治療を望まない場合、グループホーム内で看取りをしている。昨年は2名看取った。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>会議の場で救命講習を定期的に行い対応できるよう努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、消火訓練、避難訓練等を受けている。地元の方々にも運営推進会議等で、協力をお願いしている。</p>	<p>今年度は消防署の資料に従って避難経路や消火訓練について勉強会を行なった。水害時5メートルの水位が予想されている地域で、近くの小学校に避難することになっている。</p>	<p>グループホームのある建物の3階から5階が一般のマンションであり屋上もある。水害等緊急時で小学校に避難する時間がないと判断される時には屋上に一時避難できるよう、本社からマンションの管理会社に話を通しておいてもらいたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>居室に入る際は必ず声かけ会議等で話し合い意識している。</p>	<p>入居者に対する言葉遣いについては常識の範囲内で話すようにしている。言葉遣いに関する研修はしていないが、気になる時はその都度管理者が職員に注意している。排泄時等特に声の掛け方に気を付けている。</p>	<p>言葉遣いや人格の尊重とプライバシーに関してのマニュアルを作成し、内部で勉強会や話し合いをしていってほしい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の嗜好を聞き誕生日の昼食等に取り入れている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事、入浴、散歩等決められた時間はあるが可能な限り本人の希望に応じるよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>2ヶ月に1度訪問カットを行うなど要望を聞くよう努めている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る方にはテーブル拭きや片付け等を手伝っていただいている。</p>	<p>朝食は施設で準備し、昼食と夕食は配食サービスを利用している。現在外食はできないので、誕生日の昼食、おやつ、クリスマスと夏祭りの行事食を楽しんでもらっている。偏食の人には嫌いなものを見えなくしたり味付けを変えたりして配膳している。手伝いをしてくれる入居者は1階の2名ぐらいである。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食べた量や水分摂取量等、記録し支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人一人に応じた口腔ケアの支援を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人一人の排泄パターンに応じたケアの支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を使用している。1階3名、2階3名が自立排泄である。夜間はポータブルトイレを使用するが夜間も自分でトイレに行く入居者も1名いる。他の方については時間によりトイレ誘導及びトイレ介助を行なう。フロア歩行と屈伸運動をして排泄の自立を促している。</p>	

44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握や運動の働きかけを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の時間は決めているが希望に応じるように努めている。	週2回の入浴であり、各自2、3日おきに入浴する。希望があれば同性介護としている。入浴を拒む人には理由を聞いて日にちを変えたり、嫌がる原因を聞いてその解決方法を丁寧に説明する等の対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースのソファを使用したり夜間は居室の温度管理、寝具の状態を確認し安心して眠ることが出来る環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに薬剤情報を貼り薬剤師からのアドバイスも受けている。服薬支援も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好に合わせてカレンダーの色塗り、トランプ、編み物等にも対応している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	新型コロナウイルス感染症の為に出来ていないが春以降再開を検討している。	コロナ禍前には片道10分のところにある公園まで散歩に行っていた。現在は散歩はできないが家族には了承してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に応じた対応を家族と話し合い対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている方もおり要望があれば電話をする支援も行っている。		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>四季折々の絵や作品などを飾り季節を感じていただけるよう努めている。アロマ等も取り入れリラックスできる空間になるよう努めている。</p>	<p>入口や共用空間の壁一面に黄色いペーパーフラワーを飾っていて春らしく明るい空間となっている。整理整頓、掃除に除菌を徹底し、換気については空気の道を作り、換気扇も利用してコロナ感染予防に努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご自身の好きな場所に座り好きなことをして過ごす空間作りに心がけている。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居契約時に出来る限り馴染みの家具や物を持ってきていただいている。仏壇の持ち込みも可能である。</p>	<p>居室の掃除は曜日を決めて行っている。シーツの交換も1週間に1回である。換気は毎朝必ず行ないその後も随時行っている。居室にはカレンダーや時計があり、畳のところにこたつを置いている入居者もいてくつろげる空間となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>行動を見守り安全に過ごせるよう工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)</p>	○	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)</p>	○	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)</p>	○	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>